

### 第3学年 英語活動学習指導案

は組 男子17名 女子17名 計34名

指導者 H R T 阿 久 根 崇

#### 1 単 元 “How are you?” ～目指せ！世界に通じるあいさつ名人～

#### 2 単元について

##### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「おみせやさん」や「英語で遊ぼう」でのごっこ遊びやゲーム活動を通して、英語を用いて友達と楽しく遊んだりコミュニケーションを図ったりするようになってきている。また、「もうすぐクリスマス」や「ハローワールド」の活動を通して、クリスマス等の外国の行事について体験的に理解を深めてきている。さらに、「ハローイングリッシュ」の学習を通して、簡単な自己紹介をするために必要な英語に慣れ親しんできている。

そこで、本単元では、慣れ親しんできた英語を用いながら、あいさつをしたり調子を伝え合ったりするコミュニケーション活動を行うことを通して、自分のことを伝えられる喜びや相手のことを理解する楽しさを味わわせていきたい。また、あいさつをしたり互いの調子を伝え合ったりする際の動作や表情、相手への対応の仕方やあいさつの意義について、日本と外国の共通点や相違点に触れながら、外国の文化を体験的に理解させていきたい。

なお、ここでの学習は、身近なあいさつの場面から学校生活へと場面を広げてスキット作りを行う「Tomの学校」へと発展するものである。

##### (2) 指導の基本的な立場

子どもたちにとって、あいさつは家庭や学校生活で毎日行っているものであり、身近な行動である。また、行事等の外国の文化について関心を高めている子どもたちにとって、あいさつや互いの調子を伝え合う際の日本と外国の動作の違いを素材として扱うことは、外国の文化についての関心を一層高められるものと考ええる。さらに、普段の授業で“How are you?”“I’m fine.”と形式的に応答している子どもたちにとって、互いの調子を伝え合うための様々な表現を学ぶことは知的好奇心を喚起するものであり、コミュニケーションへの意欲をさらに高めることができると考える。

そのため、あいさつの場面での動作や表情、声量や相手への応答の仕方等の日本と外国の共通点や相違点について気付いたことを話し合う活動を設定することは、日本や外国の言語や文化について体験的な理解を深めることに適している。また、英語を用いたよりよいあいさつや調子を伝え合う会話を目指して動作や表情、声量や相手への応答の仕方を工夫する活動設定することは、「相手に伝えたい」「相手を理解したい」という子どもたちのコミュニケーションへの積極的な態度を養うことにも適している。

このようなあいさつの場面を話題にして、子どもたちにコミュニケーションを図る楽しさを味わわせたりコミュニケーションへの積極性を養ったりするために、まず、単元の導入で、子どもたちに活動への興味・関心や目的意識をもたせる工夫をしていきたい。そして、ゲーム活動等を通して楽しませながら必要な英語に慣れ親しませ、実際のコミュニケーション活動を通して、自分の高まりを実感したり英語活動や日常生活におけるあいさつへの意欲を高めたりしていきたい。

具体的には、まず、**子どもたちの日常のあいさつの様子や外国のあいさつの場面の絵やビデオを見せ、顔の表情や動作の観点で比較させ、気付いたことを話し合わせる活動を設定する。**そうすることで、子どもたちに外国と日本との共通点や相違点に気付く楽しさを味わわせていく。また、「目指せ！世界に通じるあいさつ名人」という目標を設定し、目的意識を高めたり目的を達成するための計画や方法を話し合わせたりしていく。

次に、リズムチャンツやゲーム活動を通して、楽しみながらあいさつや調子を伝え合う英語表現に慣れ親しませていく。その際、協調しながら活動したり分からない英語はA L TやH R Tに尋ねたりする等の働きかけをさせる。

さらに、終末段階で、声量や表情、相手への応答等を観点（コツ）にして工夫しながら英語であ

いさつをしたり互いの調子を伝え合ったりする活動を設定する。その際、観点に沿って他者評価をさせたり他者評価を基にして自己評価をさせたりすることで、自分の高まりを実感させるとともに次の活動への意欲をもたせていく。

このような学習を通して、現時点での課題を明確にするとともに課題解決に向けた見通しをもち、「動作」「表情」「声量」「相手への応答の仕方」の観点で助言をし合いながら、よりよくあいさつをしたり調子を伝え合ったりするために工夫し、互いの思いを理解したり自分の考えを伝えたりするよさを味わうことができるものと考えている。

### (3) 子どもの実態（対象者：3年は組34名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示）

|                                  |                                                                                                                          |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① コミュニケーションへの関心・意欲・態度について        |                                                                                                                          |
| ○ 英語を使って話をするのは好きか。               | <はい (29) ><br>・英語が覚えられる (10) ・楽しい (7)<br>・英語が使えるようになる (6) ・英語が好き (4)<br>・役に立つ (2)<br><いいえ (5) ><br>・英語が言えない (4) ・無回答 (1) |
| ○ 英語で話を聞くのは好きか。                  | <はい (34) ><br>・英語を覚えられる (21)<br>・英語を使うのがおもしろい (5)<br>・発音がよくなる (4) ・楽しい (2)<br>・知らないことを知れる (2)<br><いいえ (0) >              |
| ② 外国語への慣れ親しみにについて                |                                                                                                                          |
| ○ “Hello. How are you?” に答えられるか。 | ・I'm fine, thank you. And you? (34)<br>・できなかった (0)                                                                       |
| ③ 言語や文化に関する気付きについて               |                                                                                                                          |
| ○ 世界のあいさつについて知っていることがあるか。        | ・ハロー (25) ・アンニョンハセヨ (18)<br>・シェイシェイ (12) ・グッドモーニング (9)<br>・グッドナイト (8) ・ニーハオ (5)                                          |
| ④ 学習・生活経験に関する内容について              |                                                                                                                          |
| ア 英語の言い方が分からないときに、どうするか。         | ・先生や友達に尋ねる (29) ・まねをする (1)<br>・何もしない (1) ・無回答 (3)                                                                        |
| イ あいさつをすると、どんないいことがあると思うか。       | ・気持ちよくなる (14) ・人と仲良くなる (5)<br>・相手が返してくれる (3) ・ほめられる (1)<br>・無回答 (11)                                                     |

本学級の子どもたちの多くが、英語を使ってコミュニケーションを図ることに好意的である。しかし「話すことが好きではない」と答えている子どもがおり、「英語が言えない」という自信のなさがその原因の一つであると考えられる。(①)

“I'm fine, thank you.”には全員が慣れ親しんでおり、お礼を言ったり尋ね返したりする等会話の形式を捉えていることが分かった。一方で、調子を伝える“fine”以外の表現は未習であり、まだ慣れ親しんでいないことが分かった。(②)

外国のあいさつについては、英語だけでなく韓国語や中国語の知識を有している子どもがいることが分かった。日常生活でメディア等を通して外国のあいさつを聞く機会があり、子どもたちの興味関心も高いものと考えられる。(③)

学習・生活経験に関する内容では、英語での言い方が分からないときにほとんどの子どもが誰かに尋ねることで解決できていることが分かった。一方で、「言い換える」

「ジェスチャーを使う」等の工夫はあまりできていないことも分かった。日頃の授業の中で、コミュニケーション上の困難が生じた時に、尋ねることでほとんどが解決できており、その他の方法に対する必要感が低いことが原因であると考えられる。(④-ア) また、あいさつをすることの意義については、半数以上の子どもが捉えられているものの、「ほめられる」「無回答」等、約3割の子どもがあいさつの意義を理解できていないことも分かった。あいさつが形式的になってしまっていることが原因であると考えられる。(④-イ)

### (4) 指導上の留意点

ア 「英語でのあいさつの仕方を知ろう」では、ビデオを見せることで日常の子どもたちのあいさつを想起させた後、「英語ノート1」に示されているアメリカ、インド、ニュージーランド、モンゴル、サウジアラビアのあいさつの様子の絵をクイズ形式で提示する。その際、表情や動作を観点として比較させることで、国によって様々なあいさつの方法があることを知る楽しさを味わわせ、本単元の活動への興味関心を喚起していく。また、“I'm fine.”だけでは自分の調子を十分に伝えることができないことに気付かせることで、単元の活動に対する目的意識を明確にもたせていく。

イ 「英語であいさつをやってみよう」では、自信をもって発話することができるようにするために、“I'm happy.”のように慣れ親しんでいるものや“I'm sad.”のような短い表現から、“I'm tired.”のよ

うに英語特有の発音の単語へと扱う語彙の難易度を段階的に上げていくようにする。

また、コミュニケーション活動を行う際には、「動作」「表情」「声量」「相手への応答」を観点とした他者評価を通して互いのよさを認め合わせることで、達成感や自己肯定感を味わわせるようにする。ウ「あいさつ名人になろう」では、英語活動だけに留まらず、日常生活におけるあいさつへと発展させるために、これまでの学びを生かしたコミュニケーション活動を行った後、あいさつの意義について考える活動を設定し、コミュニケーションを図る楽しさを味わせる。

### 3 目 標

- (1) ALTやHRT、友達と積極的にあいさつをしたり、自分の調子を相手に伝わるように工夫しながら伝えたり相手の調子を理解しようとしたりする。
- (2) 日本と外国のあいさつの共通した意義やあいさつの仕方の違いを体験的に理解する。
- (3) ゲーム活動等を通して、あいさつや互いの調子を伝え合う英語に慣れ親しむ。
- (4) 動作、表情、声量応答の仕方の観点で工夫しながら英語を用いたあいさつをする。

### 4 指導計画(全4時間)

| 楽しさの深まり                                                                                                                                                                                                                      | 時間        | 過程       | 学習課題と主な学習活動                                                                                                                                                                                                                                          | 教師の具体的な働きかけ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>日本と外国のあいさつについて、動作や表情の観点で共通点や相違点に気付く楽しさ</li> <li>あいさつや互いの調子を伝え合うための、様々な英語に気付く楽しさ</li> <li>あいさつや調子を伝え合うための英語の音声や表現に慣れ親しむ楽しさ</li> <li>工夫した方法であいさつをしたり互いの調子を伝え合ったりし、達成感を味わう楽しさ</li> </ul> | 1         | 意欲をもつ    | <p>英語のあいさつの仕方を知ろう</p> <p>Let's Watch. How to Greet.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国のあいさつのビデオを見る。</li> <li>外国のあいさつを比較し、共通点や相違点を話し合う。</li> <li>リズムチャンツをする。</li> <li>Feelings Matching Game</li> <li>あいさつのコツ①を話し合う。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本と外国のあいさつを、表情や動作を観点に比較させるために、日常のあいさつの様子のビデオを提示して自分のあいさつを振り返らせた後、アメリカとのあいさつの違いを比較させ、上記の観点に気付かせる。その後、インド、モンゴル等のあいさつと比較させる。</li> <li>○ あいさつのコツ①～③を基にして、終末時にあいさつの意義を見い出させるために、それぞれの時間に学級で話し合って見つけたコツをワークシートに記入させていく。</li> <li>○ 調子を伝え合う際の応答の仕方について気付かせるために、相手の答えに対して応答がなく会話が終わってしまう場面を提示し、「どのように工夫すればよいのか。」と問う。</li> <li>○ 学びの達成感を味わわせるために、「動作」「表情」「声量」「相手への応答」の観点で他者評価や自己評価を行い、互いの良さを認め合わせるようにする。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                                                              | 2         | つかむ      | <p>英語であいさつをやってみよう</p> <p>Let's Play Games.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALTとHRTのスキットを見る。</li> <li>声の調子や使っている英語等の気付いたことを話し合う。</li> <li>リズムチャンツをする。</li> <li>Group Making Game.</li> <li>あいさつのコツ②を話し合う。</li> </ul>                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                              | 3<br>(本時) | 挑戦する・広げる | <p>Let's Challenge greeting.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつの場面のビデオを見る。</li> <li>調子を伝え合う際の応答の仕方について気付いたことを話し合う。</li> <li>リズムチャンツをする。</li> <li>Card Guessing Game</li> <li>Hi, friends!! の聞き取りをする。</li> <li>あいさつのコツ③を話し合う。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                                                                                                                              | 4         | 振り返る     | <p>あいさつ名人になろう</p> <p>Let's Greet Each Other.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムチャンツをする。</li> <li>これまでの学習を振り返る。</li> <li>あいさつや互いの調子を伝え合うコミュニケーションをする。</li> <li>あいさつの意義を話し合う。</li> </ul>                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |



## 5 本時（3／4）

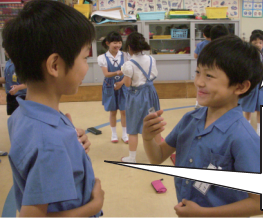
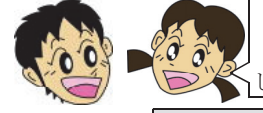
### （1）目 標

あいさつの場面においてALTやHRT、友だちと会話を継続するために、相手に応答する必要性に気づき、“Good”“O.K.”等の英語に慣れ親しみながら、積極的に会話をしようとする。

### （2）本時の展開に当たって

つかむ過程では、相手の調子とそれに合った応じ方を関係付けて捉えさせるために、絵カードを提示して視覚的に捉えさせながら慣れ親しませる。よりよくあいさつをしたり調子を伝え合ったりするために、活動を行う際に「聞き取りやすい声量」「あいさつに適した表情」「相手への応答」の3つの観点を基に相互評価や自己評価をさせる。

### （3）実 際

| 過程       | 主 な 学 習 活 動                                                                                                                                                                                                                                                       | 主な語彙や表現                                                                                                                                                         | 時間 | 教師の具体的な働きかけ                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 意欲をもつ    | 1 Greeting<br>2 Sing a song<br>“Hello song”<br>3 Watching Video<br>4 Meeting Today's Target<br>Let's Challenge Greeting.<br>相手の調子に合わせて、<br>会話を続けてみよう。                                                                                                             | A:Hello, Mr.Akune.<br>H:Hi. Mr.Sneller.<br>A:How are you?<br>H:I'm fine,thank you.<br>And you?<br>A:Oh, good. I'm fine<br>too. Thank you.                       | 10 | ○ 相手の“I'm fine.” “I'm tired.” 等の様子を踏まえて、“Good.” “Are you O.K.?” 等と応答する必要感をもたせるために、“I'm tired.” と答えた後に相手に応答しないVTRを提示し、表情から会話がうまくいかなかったことに気付かせる。さらに、「どのように工夫すればよいか。」と問う。<br>○ PracticeやRhythm Chantsでは、相手の調子と“Good.”“Are you O.K.?”等の応じ方を関係付けて捉えさせるために、調子を伝える絵と応じ方の絵を対応させて提示し、視覚的に捉えさせながら復唱させる。 |
|          | 5 Practice<br>6 Rhythm Chants<br>少しずつ言い方が<br>分かってきたよ。<br>7 Card Guessing Game<br>相手のもっているカードを当てるゲーム。<br>① 表に感情の絵がかかれたカード、裏に応答の絵がかかれたカードを一枚ずつもらう。<br>② 友達とじゃんけんし、勝った方だけにチャンスがある。<br>③ 感情の絵をヒントにして相手の応答の仕方をあてる。                                                     | Hi. How are you?<br>I'm fine / I'm hungry /<br>I'm happy / I'm sleepy /<br>I'm tired / I'm sad<br>Good / Me, too / Great /<br>Are you O.K.? / That's too<br>bad | 10 |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 挑戦する・広げる | 8 Talking Time<br><br>“I'm happy.” って言っていたから、“Me,too.” って返したよ。<br>言ったことに対して答えてくれたから、うれしいな。                                                                                     |                                                                                                                                                                 | 20 | ○ あいさつをしたり調子を伝え合ったりする際の観点(コツ)を明確にもたせるために、Card Guessing Game後に数名の子どもに模範をさせ、「よいと思うところはどんなところか」と全体に問うことで、「聞き取りやすい声量」「あいさつに適した表情」「相手への応答」に観点を焦点化し、Talking Timeへと展開する。<br>○ Talking Timeでの活動を通して、あいさつの場面における現時点での自分のよさと課題を明確にさせるために、活動しながら上の3つの観価評互相にトーシクワのい互で点をさせる。                               |
| 振り返る     | 9 Listening to<br>“Hi, friends!p8”<br>やった。聞いたことがあった英語だったから、ぼくにもできたよ。<br>10 Reflection Time<br><br>“I'm good.” に対して、“O.K.” と言ってもらえるとうれしかったよ。<br>11 Ending<br>次はクラスの人々とあいさつしたいな。 |                                                                                                                                                                 | 5  |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

本時の活動を通した学びの達成感や自己肯定感を味わわせるために、Talking Timeでの相互評価を踏まえて、あいさつの3つの観点で自己評価をさせる。